

平成 28 年度第 4 回秩父市総合教育会議議事録

期 日	平成 29 年 2 月 21 日 (火曜日)
時間・場所	15 時 33 分～16 時 30 分・芸術文化会館 2 階会議室
出席者	<p>久喜市長、新谷教育長、新井(康)教育委員、山中教育委員、久保教育委員、新井(正)教育委員</p> <p>市長室長、地域政策課長、地域政策課主査、参与、主事</p> <p>教育委員会事務局長、教育委員会事務局次長 2 名、学校教育課長、保健給食課長、文化財保護課長、教育研究所長</p> <p>傍聴者 1 名</p>
会議内容	<p>○市長挨拶</p> <p>・本日、南小学校と秩父第一中学校の授業を見に行った。南小学校 5, 6 年生の跳び箱の授業でタブレット端末を活用していた。子どもたちもタブレット端末を普通に使っていてうれしかった。また、中学校では生徒が集中して授業を受けているのを見ることができた。改めて現場を見ることは大切だと感じた。</p> <p>○教育長挨拶</p> <p>・平成 27 年度以降、本日が 8 回目の総合教育会議となる。市長と教育委員会との協議の場として良い形で運営できていると感じている。</p> <p>・本日は、文部科学省でパブリックコメントも実施している新学習指導要領（案）についての議題が用意されている。今後の方向性が示され、より良い教育が進められるものと考えているが、市としての対応等様々な意見交換を行いたい。</p> <p><傍聴人入場></p> <p>○議事</p> <p>(1) 新学習指導要領について</p> <p>・資料 1～3 及び参考資料について教育長より説明。</p> <p>・小学校中学年及び高学年で年間 35 単位増加というのはかなり厳しく、先生は大変になる。教育委員会で対応方法などを考えて示す必要があると思う。子どもに対しても授業習熟のためのフォローが必要になる。ICT に関しては秩父は進んでいると感じている。ただ、先生の ICT 対応も得意不得意があると思うので、先生に向けて市長部局・教育委員会が情報発信するなど、負担軽減を図る必要がある。(新井康教育委員)</p> <p>・改訂に伴う変更について、先生の研修等を実施し、資料にあるとおり、子どもたちがどのように学ぶか、「主体的・対話的で深い学び（アクテ</p>

ィブラーニング)」が機能するようにしてもらいたい。(久保教育委員)

- ・時間割編成、先生の長時間勤務など、時間を工夫する必要がある。資料にもあるが、授業時間の増加など、様々なテーマをこなすには教材の研究や人員の増加など、条件整備が必要となる。予算も絡む問題なので、市長にはあらゆる面でご配慮いただきたい。(新井正教育委員)
- ・そもそも子どもにとってどれだけ学べたかが問題となる。どれだけ理解できているのか。できる子・できない子に分かれてしまう可能性もあると思うので、ぜひ子どもの立場からの視点を忘れずに進めてもらいたい。(山中教育委員)
- ・負担の増加、子どもへの影響など、細かな検証が必要。例えば、ICT活用もあくまで手段であり、あくまで先生と生徒、人対人であることが重要。マンパワーが必要であり予算も必要になってくるが、人のぬくもりを感じながら授業を受けられることが必要であり基本である。
(久喜市長)
- ・何ができるようになるか、ということが言われているが、何ができないかを分かることも。足りないのは競争ではないかと感じている。格差にもつながるので一概には言えないが、できる子とできない子がいるので、教え合うことも必要。(新井康教育委員)
→秩父地域の高校4校は倍率が低く、入りやすい状況と聞く。競争意識が欠けてくると教育のレベルも低下するのではないかと心配する。(久喜市長)
→一般論であるが、全国的に簡単な計算や読み書きができない高校生もいると聞いている。また、高校中退率も高く、将来幸せになってもらえるのか心配。キャリア教育を進めるなど、将来を意識した教育を進められるとよい。(新谷教育長)

(2) 発達障がい支援について

- ・資料4について事務局より説明。
- ・将来の支援がどのようなものかが分かれば安心できる。今後作成となるリーフレットは分かりやすく作ってもらい、徹底的に周知・PRしてもらいたい。(新谷教育長)
- ・発達障がいは支援を受けたほうが良いかどうかの境目の判断が難しい。家庭の理解が広がれば子どもの支援につながると思う。(山中教育委員)
- ・親はわが子の発達障がいを認めたくない。早期に親が専門家に相談し、特別支援学級から普通学級に変わったという新聞記事を読んだことがある。行政からの働きかけは重要だと思う。(久保教育委員)
- ・親の理解があるほど対応は早い。高校は入学できても、フォローがな

い場合が多い。むしろ特別支援学校に行くほうが、将来的に独立した生活を送れる可能性がある。(新井康教育委員)

- ・特別支援学級か普通学級かは判断が難しい。発達障がいの程度は、顕著なものから、それほど気にならないものまで、グラデーションのように考えられており、障がいがあるのかないのか明確に線を引くのは難しい。

なお、埼玉県では、障害のある児童生徒が必要な学習活動を行うために、在籍する学校または学級以外に学籍を置く「支援籍」という独自の取組を行っている。また、横浜市は「副学籍」という同様の制度を設けている。(新谷教育長)

- ・障がい者の情報は、病院でいうところの「カルテ」にあたると思う。情報をどうやってつなげていくかを庁内会議で検討してもらいたい。

(久喜市長)

→保護者にポートフォリオ（情報ファイル）を作ってもらい、それがつながっていくとよい。(新谷教育長)

→個人情報なので取り扱いは慎重にする必要があるが、今後の方向性も含めてポートフォリオで管理できるとよい。(久喜市長)

<傍聴人退場>

○その他

- ・現在、市民スポーツ課や生涯学習課が市民部に含まれているが、体育や社会教育は教育委員会との親密な連携が必要。組織編成をした市長の考えもあるだろうが、連携が図られるようにしてもらいたい。

また、文化財に関して、秩父には旧家などに眠っている古い文書など、隠れた文化財があると思う。代が変わる際に廃棄されることもあり得ることから、研究のため広く集められるようにしてもらいたい。(新井康教育委員)

(新井康教育委員)

以上